

## 第7回 札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会を開催

札幌開発建設部で現在実施中の夕張シューパロダム建設事業及び幾春別川総合開発事業のダム事業について、一層の事業費・工程監理の充実を図るため、「コスト縮減策やその実施状況」、「事業の進め方等」について学識経験者等のご意見を頂く場として「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」を開催いたしました。

### 記

- 開催日時 平成26年8月4日（月） 15：30～17：00
- 開催場所 札幌開発建設部内会議室
- 議 題

#### 1. 夕張シューパロダム建設事業

- (1) 事業の実施状況
- (2) 試験湛水の状況報告

#### 2. 幾春別川総合開発事業

- (1) 事業の実施状況
- (2) 平成27年度事業実施方針(案)
- (3) 基本計画変更について



#### 「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」委員名簿

◎委員長(敬称略、五十音順)

名前	役職等
◎泉 典洋	北海道大学大学院工学研究科 教授
いずみ のりひろ	
浜本 聡	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ グループ長
はまもと さとし	
向田 直範	北海学園大学法学部政治学科 教授
むかいだ なおのり	
山下 弘市	元北海道土木技術会 コンクリート研究委員会委員
やました ひろいち	

## ◆議事要旨◆

○各委員からの主な意見は以下のとおり。

### (1) 夕張シューパロダム建設事業

(質問) 流況により試験湛水が延びた場合は、管理に移行する時期も延びるということか。

(回答) そういうことになる。

(質問) その場合、予算は大幅な増加にならないのか。

(回答) 予算内で対応可能と考えている。

(意見) 挙動観測について、管理移行後は観測頻度や必要性等も考慮し、システムを見直す必要がある。

(質問) 試験湛水が終わらないと発電所は稼働しないのか。

(回答) 現在、貯水位に応じた発電出力などの試験を行っており、試験湛水期間中はこの試験を実施するため、本格稼働はダムの供用開始以降となる予定。

(質問) ダムを利用した地域振興を何か考えているか。

(回答) ダムの利活用について、地元夕張市や各関係団体と調整しているところ。

### (2) 幾春別川総合開発事業

(質問) 新桂沢ダムのエレベータを廃止して、監査廊へ降りる代替輸送手段はあるのか。

(回答) 監査廊内にモノレールを設置する予定。

(意見) モノレールは資機材の搬入には有効だが、メンテナンスが課題となるので検討すること。

(質問) 1年目の最終打設面の越冬養生に使用する断熱材は、経済性と産業廃棄物を減量するために再利用を工夫すべき。大型土のう袋に砂を詰めて並べる方法であれば、再利用は容易ではないか。

また、橋脚等のコンクリート打設養生に使用されている断熱マットの使用も検討してはどうか。

なお、越冬養生の際にコンクリート打設面が乾燥状態になると乾燥収縮ひび割れが発生するので、注意が必要。

(回答) 再利用の可能性等について、検討を進めたい。

(質問) 新桂沢ダムのカーテングラウチングの範囲について、河床部は施工しなくて良いのか。

(回答) 既設の桂沢ダムのカーテングラウチングの止水効果を確認しており、嵩上げで新たに必要となる範囲を中心に止水処理を施工することとしている。

(質問) 三笠ぼんべつダムの排砂設備はどのように運用して排砂するのか。

(回答) 常用洪水吐はゲートがなく常時通水している。排砂設備は洪水期を常時閉門し、非洪水期を常時開門して運用する。非洪水期の融雪出水で排砂する計画である。

(質問) 常用洪水吐は、設計の修正により下段へ位置が変更されているが、運用はどのように変わったのか。

(回答) 当初は洪水後期に、排砂ゲート进行操作して放流・排砂する計画だったが、洪水吐を下段に配置することによって、洪水の度に排砂ゲート进行操作する必要がなくなった。

(以上)